

②7 complete

“自分らしく生きる”を支える、
私たちのストーリー



株式会社two.seven／株式会社TSB

A caregiver, a woman with short brown hair wearing a dark blue jacket and a white face mask, is pushing a wheelchair. The elderly woman in the wheelchair has white hair, wears glasses, a colorful striped sweater, and a white face mask. She is pointing her right index finger towards the right. They are on a balcony with a metal railing. In the background, there is a lush green mountain, a multi-story building, and a string of colorful flags hanging from a pole. The sky is blue with some light clouds.

Our Philosophy | 私たちの理念

私たちの使命 (Mission)

すべての人に“自分らしく生きる”ための“力”を。

健康・運動・リハビリ・看護・介護を通じて、誰もが年齢や病気に関わらず、心身ともに健やかに、自分らしい生活を送れる社会を目指します。



私たちが描く未来 (Vision)

誰もが、最期まで笑顔で暮らせる社会を。

年齢や身体の状態に関わらず、誰もが地域で安心して、自分らしい人生を歩める社会の実現を目指します。健康づくりから在宅支援、最期のときまで、最期まで笑顔で暮らし続けられるよう、切れ目のないサービスで人生に寄り添います。



私たちが大切にしていること (Value)

「ありがとう」を目指す。

「ありがとう」を、利用者様、ご家族、地域、仲間同士、社会・環境に心を込めて伝え、また受け取れる存在を目指します。健康と福祉の案内人（コンシェルジュ）として、プロ意識と感謝の気持ちを持って行動します。





自分らしく生きる力を、あなたに。

“自分らしく生きる”——
それは、周囲の目や社会の期待に縛られず、自分の価値観や信じてきた想いを大切にして、
「好きなこと」「得意なこと」「大切にしていること」と共に歩いていくことです。
つまり、自分の人生を自分で選び、主体的に生きるということです。

「ここに来たいと思ったから来た」
「この運動なら、自分にもできそうと思えた」
「このスタッフと話すと、なぜか前向きになれるから」
そんなふうに、私たちのサービスは、あなたが“自分の意思”で選んでくれた場所です。

だからこそ、私たちは、“選べる自由”と“選べる環境”を整えることにこだわります。
そして、そのうえで——
「好きなこと」「得意なこと」「大切にしていること」
をもう一度、取り戻すための“力”を届けたいのです。

- ・「もうできない」と思っていたことを、再びやり遂げた
- ・憧れていた理想の身体に、ようやく近づけた
- ・失いかけていた自信を、ここで取り戻せた
- ・忘れられないあの場所へ、また行けるようになった
- ・昔から得意だったことを、今も続けられている

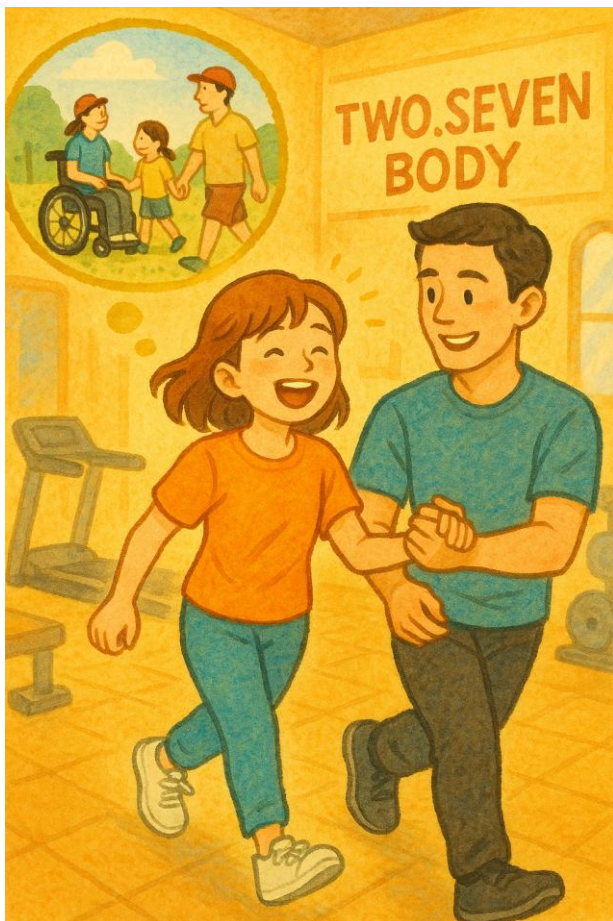
ひとつひとつが、“自分らしさ”の物語です。

お客様一人ひとりが、自分らしく輝ける人生を歩めるように。
その歩みのそばで、そっと支えになれるように。
「ありがとう」が、自然に生まれるように。
そんなエピソードを、私たちはこれからも創っていきます。
それが、私たちの誇りであり、使命です。

自分らしく
生きる力。

TWO.SEVEN BODY
エピソード集

フィットネス事業（株式会社TSB）におけるエピソードをご紹介します



人生が変わったきっかけは、 たった一度の体験から

～運動で「人生が変わった」と実感した物語～

Hさん 20代 女性

Hさんは、小学生の頃から車椅子生活を送ってきました。

股関節に先天的な障害を持ち、運動とは無縁の人生。体育の授業は退屈で、運動する楽しさを知らずに育ちました。それでも日常生活には大きな不便を感じることなく過ごしていましたが、20代後半になると、慢性的な腰痛や肩こりに悩まされるように。

休日にも疲れて外出する気力がなく、ますますインドアな生活に拍車がかかっていきました。

そんなある日、兄が「TWO.SEVEN BODY」というジムに通い始め、「お前も通ったら人生変わるかもしれないぞ」と、真剣な表情で声をかけてくれました。

最初は全く興味がなかったものの、毎日楽しそうに話す兄の様子に少しずつ心が動き、体験に行ってみることに。

ジムに足を踏み入れた瞬間、温かく迎えてくれたトレーナーたち。

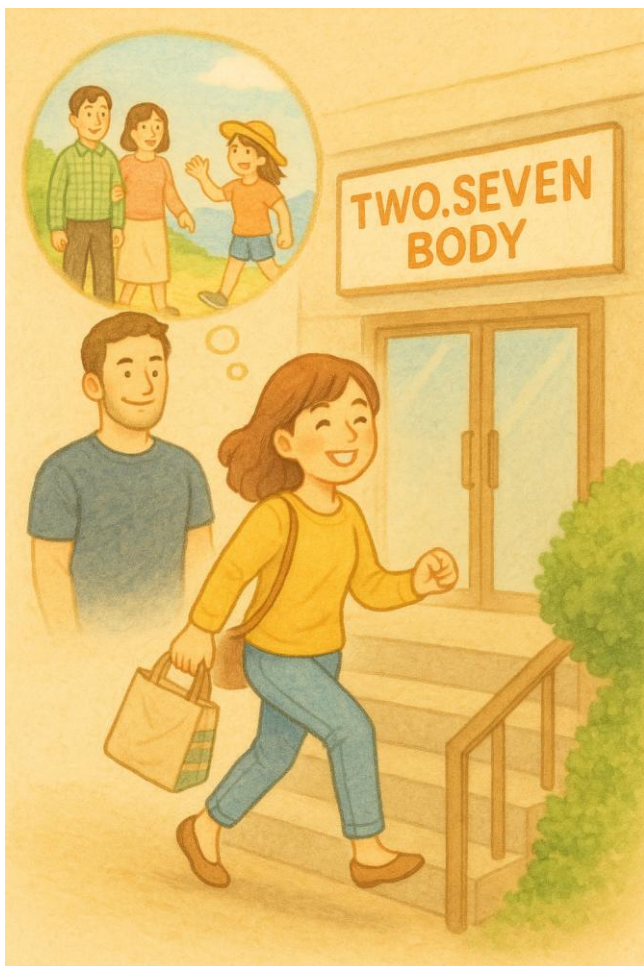
運動に苦手意識を持つ自分の体をしっかり理解し、丁寧に寄り添ってくれる姿勢に、「ここなら大丈夫」と安心できたそうです。

気づけばTWO.SEVEN BODYは日常の一部に。

通ううちに腰痛・肩こりは解消され、なんと家族旅行では3日間一度も車椅子を使わずに過ごすことができました。まさに、「人生が変わった」と実感した瞬間でした。

今では、週末ごとに出かけ、美味しいものを探しに行くほどアクティブに。周囲からも「見違えた」と言われるようになりました。

「ここまで変わったのは、トレーナーさんのおかげです。本当に感謝しています。」
運動が、人生を明るく変えてくれる——そんな希望を感じさせてくれるエピソードです。



「杖がなくても、私は歩ける」

～小さな一歩が、大きな人生の変化を生んだ物語～

Iさん 60代 女性

65歳を過ぎた頃、Iさんは、いくつもの病と向き合っていました。

脊柱管狭窄症、腰椎すべり症、人工股関節、乳がん、大腸がん、高血圧、脂質異常症…。杖無しでは歩けず、100メートル進むだけで5分間も休まなければならない状態。

「このままじゃ、どんどん動けなくなる」

そんな不安と恐怖の中、藁にもすがる思いでTWO.SEVEN BODY宮の沢店の扉を叩きました。

体験初日、玄関の段差すら一人で上がれず、トレーナーの肩を借りてカウンターまでようやく辿り着いた——。その姿は、決して忘れられないものだったと彼女は振り返ります。

「元気に、毎日を過ごせるようになりたい」

その一心で始めたトレーニング。時には「今日は休みたい」と思う日もありました。けれど、トレーナーたちの優しい声かけと励まし、思わず笑ってしまう面白話に救われ、次第に運動が楽しいと感じられるようになりました。

気づけば、毎週月曜と木曜に通うことが当たり前。

いつの間にか、杖を手放し、自分の足で歩けるように。階段の昇り降りもできるようになり、生活が一変しました。

そしてもうひとつの大きな夢も叶います。大好きな日本ハムファイターズの試合を、スタジアムで「自分の足で」観戦すること。

以前の身体では考えられなかった未来が、今では月に1～2回、エスコンフィールドに通うまでに。スタンドから声援を送るその姿に、誰もが目を見張ります。

「まだまだ、私はできる。変われる。」

そう思えるようになったのは、TWO.SEVEN BODYのトレーナーたちの支えがあったから。

心からの感謝とともに、Iさんは今、人生をもっと楽しく、もっと自分らしく、もっと元気に生きることを誓っています。



「100歳まで歩く」 人生を変えた、続ける力

～ “嫌々” から始まったトレーニング物語～

〇さん 70代 女性

「歳を取って歩けなくなるのは、絶対に嫌だった」

そう語るOさんが、TWO.SEVEN BODYに出会ったのは、偶然でした。デイサービスを利用していたお母様のご縁で、ジムの存在を知ったのです。

Oさんはもともと、パブリック型のジムに通っていました。けれど、自分に合っているのか分からず、気がつけば目的はお風呂とサウナ。運動は嫌いではないけれど、「何をすればいいかわからない」。その不安が、ジム通いの妨げになっていました。

そんな時に会ったのが、TWO.SEVEN BODY。開店当初から通い始めたものの、最初は正直、きつかった。トレーニング中に愚痴をこぼすこともあったそうです。でも、やめなかった。

続けられたのは「トレーナーさんが見てくれているから」。その安心感が、少しずつ「運動をすること」を日常に変えていきました。気づけば、脚がしっかり上がるようになり、段差にもつまづかない。そんな“ちょっとした変化”が、洋子さんの心を前向きに変えていきます。

そこに訪れたのが、コロナ禍。ジムも一時休業となりましたが、Oさんはあきらめませんでした。

「再開する日までに、自宅でもできることを」と、トレーナーに教わった運動を思い出しながら、自分なりにコツコツと継続。

それからのOさんはまさに“研究者”。

トレーナーのアドバイスをノートに記録し、自分だけのトレーニングメモを作成。YouTubeや書籍で筋肉について学び、身体への関心は日を追うごとに深まりました。その努力は、数値でも表れます。大学病院の精密検査では骨密度が向上し、主治医が驚くほどの結果に。

「100歳まで、元気で歩く」

その目標に向かって、今も笑顔でTWO.SEVEN BODYに通い続けています。



「もう、手術は 繰り返したくない」

～Tさんが見つけた、自分らしく歩む道～

Tさん 30代 女性

何度も繰り返された大きな怪我。

右膝のACL損傷と半月板損傷——4度の手術。

手術のたびに心も体も削られ、「もう二度と経験したくない」そう思いながら過ごす日々。

生活はままならず、仕事柄の肩こりにも悩まされていました。

「少しでも姿勢を改善できれば」

そんな小さな希望を胸に出会ったのが、TWO.SEVEN BODYでした。

運動経験はゼロ。膝には不安が残る。

でも、セミパーソナルという形が、彼女に安心を与えました。

一人ひとりの身体をきちんと評価し、その人の目標に合わせたプログラムを作成してくれる。

だからこそ、「私でもできるかもしれない」と思えたのです。

気づけば、通い始めて2年——

膝の痛みも、肩こりも、今では気にすることなく日常を過ごせるように。

生活が快適になり、動くことが怖くなくなった。体が変わると、心も変わる。

そして最近では、食生活にも自然と気を配るように。

「もっと自分の身体を大事にしたい」そんな思いが育ってきました。

セミパーソナルトレーニングだからこそ、運動が「つらいこと」ではなく「自分を整える時間」になった。

これからも、無理をせず、でもしっかりと。

「健康な自分でいられるように」——Tさんは、今日もまた笑顔でジムに向かいます。



「希望のリハビリ」

～専門家をお願いして良かった～

Iさん 30代 女性

左股関節に感じた違和感。

些細なことと思い、ネットで評判の良いクリニックを受診した結果、告げられた衝撃の診断。

「歩けなくなる前に手術が必要です。」

その言葉に動揺しながらも、手術を受けると治るものだと思います、手術を決意したものの、術後の現実は想像以上に厳しかった。

痛みと不安、そして術後の不自由さに苦しんでいた中、リハビリは自分で行わなければならないと言われ、リハビリを進める方法を模索することに。

病院から渡された動画を見ながら試行錯誤するも、正しい方法かも分からない不安が募る。

このままではいけないと思い、リハビリを目的としてジムを探し始める。

そんな時、見つけたのがTWO.SEVEN BODY白石店だった。

トレーナーさんが怪我の状態や身体に合わせたメニューを作り、教えてもらえるので安心だった。

手術部位も自分が思っている以上に硬くなっていることもわかり、驚いた。

リハビリに通うことで、次第に体が軽くなり、筋肉が柔軟になり、痛みも大きく減少。

たった2ヶ月で、かつての痛みが信じられないほど和らぎ、今では日常生活にも支障をきたさないレベルまで回復することができた。

あの時、専門家に任せて本当に良かった——。

そして、ここに来て、諦めずにリハビリを続けてよかったと、心から感じている。

自分らしく生きる“力”を届けよう

私たちが掲げる経営理念は、単なるスローガンではありません。

日々の仕事の中で、「ありがとう」を重ね、誰かの「自分らしさ」を支えていく。

その積み重ねが、私たちの未来を創っていきます。

一人ひとりの想いとともにより、「自分らしく生きる力」を、私たちは届け続けます。



株式会社two.seven・株式会社TSB

代表取締役会長 清水 宏保



取締役社長 早川 朋希

CORPORATE PROFILE

会社情報

社 名 株式会社two.seven
株式会社TSB

役 員 代表取締役会長 清水 宏保
取締役社長 早川 朋希

事業内容 サービス付き高齢者向け住宅の運営
リハビリ型デイサービスの運営
訪問看護ステーションの運営
定期巡回随時対応型訪問介護看護の運営
セミパーソナルジムの運営

LOCATIONS

施設情報

- ・本部・総務企画部事務所
- ・リボン訪問看護ステーション（訪問看護）
札幌市中央区宮の森1条5丁目1-6 スリットビル2階
- ・TWO.SEVEN BODY（セミパーソナルジム）
 - ・円山店 札幌市中央区南5条西23丁目1-1
 - ・白石店 札幌市白石区南郷通1丁目北5-18
 - ・桑園店 札幌市中央区北7条西16丁目1-1
 - ・北18条店 札幌市北区北19条西4丁目1-15
 - ・宮の沢店 札幌市西区発寒6条10丁目1-27
 - ・環状通東店 札幌市東区北14条東14丁目2-1

- ・リボンリハビリセンター（リハビリデイ）
札幌市中央区宮の森1条6丁目2-15
- ・Gold Hills 平岸（サ高住）
- ・リボンリハ&スパセンター平岸（リハビリデイ）
- ・リボン定期巡回センター平岸（定期巡回）
札幌市豊平区平岸1条13丁目4-11
- ・リボン訪問看護ステーション平岸（訪問看護）
札幌市豊平区平岸3条12丁目5-7-204
清田サテライト
札幌市清田区清田1条4丁目1-50